

最重要課題は何か

関係者の皆様と一緒に子供達の育成に努める



永沼 義和 議員

良き指導者には
良き子供が育つ

永沼 教育長の最重要課題はどれだけ多くの良き先生を我が町の教育者として確保できるかが大きな仕事であると思う。
新教育長に実力を期待する保護者も多くいる中で教育長の考えは。

教育長 教育を取り巻く環境は大きく変わってきた。家庭・地域・社会全体の規範意識の低下、近隣住民間の連帯感の希薄化など子供においては基本的な生活習慣の乱れ、学力や体力、社会性の低下など、子供は国の宝町の宝であり、保育・幼稚園及び小中学校教育の一層の充実を挙げたい。
毎日の授業を中心とした教育活動の充実を図っていくということであります。
また、年度末の人事には最大限の努力をしていきます。



熱心に学ぶ子どもたち

教師の指導力は
自信あつてこそ

永沼 小学校において、先生が得意分野での授業を受け持たせる、矢吹町独自の指導を実施する事に教育長の考えは。

担任教師が1年間クラス生徒全てを指導する事は不公平であると思う。

教育長 少し難しいことでもあります。小学校の校長と相談をしたい。

全教科というぐあいにはまいりませんが1教科でもいいからできるような方法を検討してまいりたいと考えております。

日本一の短距離ランナー
丹野選手の応援に疑問？

永沼 8月26日大阪長居競技場での応援体制があまりにも情けない。

25日夜8時大型バスにて町民19名の参加、26日競技場では約40名の応援であったのだが、今後の応援体制は？

また、今定例会に矢中学生徒の「ゴルフ」練習について予算化されております。いつからどのような形で進めていくのか。教育長の考えは。

教育長 今後北京オリンピックの応援については、ピックの応援については、後援会が発足いたします。

で皆様と協議をしながら応援体制を組んでいければと考えております。

町を挙げて応援できればと思います。

矢中のゴルフ教室には今年度は10月に何回か教室を設けて、そしてその前に中学生に希望をとつてということになります。

学校外ゴルフ場をお借りして教室を進めていきたいと思えます。

議員の皆様や教育委員の皆様のご指導を得ながら町当局とともに委員会の事務局職員一同力を合わせて、その重責を果たしていきたいと思えます。



大阪に終結した丹野応援団

町政を問う



吉田 伸 議員

教育長の教育方針は

将来に夢と希望が持てる町に

矢吹町が進める
企業誘致の実現は

吉田 矢吹町政の将来を考慮し財政再建、都市計画、町民の雇用問題、国土利用計画農振の見直しを含めた、第5次振興計画に展開する矢吹町民1万9000人の生活を考えた矢吹町政の将来を伺う。

合わせて矢吹町に点在する工場用地の企業誘致の途中経過と今後の方針と将来の展望を伺う。

町長 20の政策のうち「健康の町をつくります」を初め「子供を安心して産み育てることができる町をつくります」「安全で安心な町をつくります」などの6つの政策につきましては、今後5年間の重点政策に位置づけているところであります。

又矢吹町の将来を左右する企業誘致の推進を政策実現の重要な施策に位置づけているところであります。今年度から産業振興課内に、商工振興対策室を設置し、組織強化を図りながら

企業誘致を積極的に進め、その結果、一定の成果を見ているところであります。

栗林教育長の 教育方針は

吉田 人づくりは矢吹町政の大切な基本。学校教育に努める教育長の所信を伺う。

関根前教育長の興した矢吹町の教育方針に合わせて栗林新教育長は矢吹町にどのような教育の指針を定めて進むのか伺う。



中学校女子駅伝県大会

教育長 関根前教育長が進めてこられた矢吹町の教育を考える会や学校教育の向上を基礎として、さらに伸ばしていきたいと思えます。

みんなが将来に夢と希望が持てる町にしていくためには、教育や文化、スポーツの充実が一層大切になってきます。

さらに、これからの矢吹町の未来を、教育、文化、スポーツ活動を通して、豊かな暮らしのできる町につくっていくということでありたいです。

教育委員会は、そういう矢吹町の未来を考えていく大事な役割を担っていると考えております。

会津美里町 議会広報より

吉田 会津美里町議会広報を見て、全職員に願います。

レベルの低い話に合わせず、新しい矢吹町の創造に尽力を展開する事が大切と思う。町長の方針を伺う。



職員研修

町長 財政再建は、会津美里町の言葉をかりれば、まさに苦難の道であります。

町民の皆さんと情報を共有し、議会と行政と三者で力を合わせ、大きな課題解決に臨むことで、近い将来には、必ずや明るさが見えてくるものと信じております。

多くの若い職員からの提案を受けた内容となっており又経験と能力を備える幹部職員、中堅職員に期待することは当然のことながら、若い職員が一騎当千の活躍ができる土壌をつくり、全職員力を合わせ、持てる力を十分発揮して頑張ってもらいたいと考えております。